



初芝富田林中学校・高等学校

学校法人 大阪初芝学園は、初芝富田林中学校高等学校だけでなく、中高併設の初芝立命館や初芝橋本、はつしば学園小学校、はつしば学園幼稚園、初芝スイミングスクールを有する総合学園だ。同学園は、学校法人立命館との教学連携10年目を迎える2018年をエポック・メイキングな改革の年と位置づけ、「変わる初芝」をテーマに、同校のみならず学園全体のリニューアルに着手している。同法人の教学担当常務理事である小畑力人氏と、同校の学校長に就任した平井正朗氏のお二人にお話を伺った。

経営手腕に長けた人材を登用し改革に挑む



教学担当常務理事の小畑氏と初芝富田林中学校高等学校の校長の平井氏

緑豊かな自然に囲まれ、勉学に集中しやすい環境を生み出している初芝富田林中学校・高等学校は、1984年4月、初芝高等学校富田林学舎（分校）として開設され、翌1985年4月に初芝富田林高等学校として独立。併せて中学校も備える共学校だ。学園理念

『夢と高い志、挑戦、そして未来創造』、校訓『誠実剛毅』のもと、『一人ひとりの未来へと繋がる夢を実現する』という教育目標を果たすべく、様々な教育を実践してきた。

とした地位を占める進学校の復活」となった。強い信頼関係に結ばれた小畑常務と平井校長は、「立命館グループの学校としてかつての進学校への返り咲きをステップに新たな教育を創造する『超進学校創り』」と口を揃える。

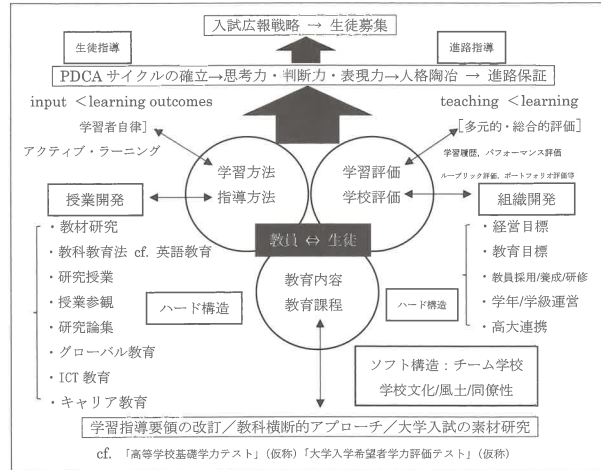
「今、100年に一度と言われる教育改革が断行されようとしています。大学入試においても知識だけに偏らず、思考力・表現力・判断力を問う方向性が読み取れます。これは容易に実現すること難しいですが、授業の質の向上こそが最大のポイントです。本校でも今年から「主体的・対話的で深い学び」につながる『探究総合（高1）』や『英語で英語の授業』やICT化に向けて『国際理解』（中2・3）の授業におけるオンライン英会話など、学習内容の『習得』にとどまらず、学んだ知識を『活用』し、問題意識をもって『探究』できるようにする授業展開がスタートしています」（平井校長）

常務理事である小畑力人氏は、関西文理学院から立命館大学に移り、「学生は顧客」という経営的視点で4万人足らずだった立命館大学の受験者数を10万人のトップランクの人気大学に育てあげ、系列校（付属学校）の充実にも貢献するなど、学校再生の神様」と言われる人物だ。校長の平井正朗氏は、私立中高の経営に造詣が深く、前任の龍谷大学付属平安中高を徹底した組織化で関西屈指の人気校に育てあげ

ると同時に、英語教育の実績も豊富であり、著作も多い。キャリアあるお二人の言葉だけに説得力は十分であり、期待値もふくらむ。

「バランスのとれた知育・徳育・体育を実践し、一定評価のある学校は、生徒の実態を的確に把握し、改善に向けた目標と実行のベクトルが同一方向にあり、意識する、しないに関わらず、PDCAサイクルに基づくカリキュラム・マネジメントが有効に機能してい

平井校長の作成した学校経営において実践されてこられたカリキュラム・マネジメントの概念構成図



ます。予測困難と言われる時代にあつて、私立学校の存立と持続的な発展のためには不断の改革とスピードが問われます。しかも、その一方で、止まることのない変化を踏まえて、常に実践した結果の検証と教育内容を精査することが求められます」（小畑常務）。

また平井校長は、同校の全体目標の中核をなす進路指導のあり方として、「現状の学力で合格できる大学を受験させるのではなく、より高い志望をもたせ、生徒個々に『学力の伸び』を実感させ、本当に入学したいと思う第一志望の大学に挑戦、合格させる。『第一志望決定率』進路満足度100%へのアプローチ」とし、「大



チーム力で学校改革に取り組む同校の職員一同

超進学校化を目指し邁進する

平井校長は、「私は、学校力とは何ですかと問われたら、『チーム力』と応えることにしています。いわゆる人気校に見られる共通の傾向が、『チーム力』であり、その精度の高さが大学進学実績であれ、クラブ戦績であれ、教育成果という『大輪の花』を咲かせているように思います。生徒一人ひとりの夢の実現に貢献できるかどうかは、学校がめざす目標達成に向けて全教職員がベクトルを合わせ、どれだけスマイル・ステップを積み重ねるのかにかかっています。スマイル・ステップとは、学習指導、生徒指導、クラブ指導など、その範囲は多岐にわたりますが、生徒の成長に

関係するものすべてにおいて、生徒とどれだけ対峙

したか、否、どれだけ『魂』を込めて指導したかということです。これまでの『面倒見のよさ』を身上とした学習・進路指導を徹底しつつ、目標の『見える化』や『学び方の選択』を可能にすることによって、生徒一人ひとりのポテンシャルを最大限に引き出せるよう全スタッフがそれぞれの役割を担い、研鑽を積んでいきます」と結ばれた。

小畑氏と平井氏に共通するのは、「校塾連携」の推進者であるということだ。関西を代表する学校改革のプロフェッショナル二人が、「最強タッグ」を組んで手掛ける初芝富田林中学校高等学校からは目が離せない。

6月14日、同校主催の入試説明会（会場は同校）でいよいよその全貌が明らかにされる。



「超進学校化」に向け生徒の意識改革も進む

超進学校化を打ち出し、これからを生き抜く多様な力を育む